

## 保育計画成果報告書

法人名等	木実和株式会社
施設名	はなにご保育園
報告者（役職）	澤田 香織（園長）
住所・連絡先	埼玉県川口市本町3-3-15
	☎ 048-420-9615
	E-mail hananikohoikuen@ki-mi-wa.rcom

### ○タイトル（保育計画）

未来を支える心身共に、骨太な子ども達を育む

### ○主な助成備品

平均台・マット・跳び箱・スーパーホーミング・トンネル滑り台・ボールなど

## 1. 保育計画策定の目的

本園は2019年4月にオープンした園庭がない保育園です。午前中は公園を中心に戸外遊びを行っていますが、幼児は入園当初、他の園から転園してきた子が少なく、体力の無い子が多くまた個人差がありました。成長段階を踏んでいないせいで、バランス感覚が無く滑り台やぶらんこから落ちるということもありました。それを支える筋力、反射神経も乏しい様子だったので、運動用具を購入させて頂き、身近に使える環境にし、段階をふんだ成長過程が養われて行けるように活動に用いてきました。

## 2. 具体的な実施内容

初めて器具を見たときは、目を輝かせわくわくしている様子が伝わってきた。主に幼児の部屋に運動用具を並べ、鉄棒や、跳び箱などのけがの無いよう行う際のポイントを伝え、順番を待ちながら一人ずつ行っていく。時にはサーキット式に楽しむことも取り入れてきた。トランポリンは大きく、子どもの心を掻き立てるため見ただけで興奮してしまうので、部屋の周囲に椅子を用意し我先にならぬよう座って待つことで、鉄で組み立てられバネで指を挟まぬよう伝え配慮するようにした。跳び箱は、いきなり飛ぶことは恐怖があったようだったので、2, 3段の上り下りから始め、ジャンプして下りれるようになったころ、助走して手をつき飛びこえる事を徐々に行っていく。平均台は少し高さがあるものだったので、マットを下に敷き落ちて大丈夫なように設置する。トンネルやスーパーホーミングは乳児が多く取り入れていた。積み木のようにスーパーホーミングを高く積んだ

り、長く伸ばして乗り物に見立てて遊び、イメージを膨らませていた。トンネルは両サイドを保育士が押え、逆に進行しないように促していく。途中透明のビニールが窓になり外から中からと覗けるようになっているので、両側からの交流が楽しめる。スーパーホーミングの平均台は、ぶつかってもソフトで痛くなく、幼児の平均台よりも低く安定しているので、乳児に適して安心して取り入れていくことができた。



ジグザグに並べてその上を落ちないように歩く

これなら安心して渡れます！



こんなに高く積み事も出来ます

### 3. その成果と評価

マット運動は、回ることが苦手な子は横に転がる事から始め、前転へと移行していく。背中を丸めて出来ず、ボタンと真っすぐに回ろうとする子が何人かいたので、両手を肩幅に開いたところに頭をしっかりと入れダンゴ虫になって転がる事を伝えると上手になってきた。平均台は、怖さから補助の手を離さず力が入り、バランスが悪くなり前に進みづらくなっていたが、回数を重ねるうちに力が抜けてきて、バランスがとりやすくなる。カニ歩きの横歩きから、前歩きへと出来るようになってきた。また、そこからの着地する際のジャンプも恐怖心が消えていった。トランポリンは乳児もその場にいたが、高さがあることで暫く近寄らずにいたものの興味はある様子で観察はしていた。幼児は中央のバーに掴まり飛ぶことを伝えるとすぐに行動に起こし上手にできる。徐々にジャンプの高さが増してくる。1, 2歳児は下が安定しないところでのジャンプは難しく、立つことよりも、座って波打つ振れを楽しむようにした。1, 2歳児のトンネルを用いた遊びでは初めは、トンネルの途中で止まってしまったり、中で寝転んでみたり、伸びてしまい、次の子が入れない事もあったが、そんな状態でも楽しかったようで繰り返し挑戦していた。次第にトンネルをくぐることで、ハイハイがとても速くなり、背筋も鍛えられてきた。跳び箱の上にマットを敷いて山を登ったり、斜面を滑ったりするなどの遊びも取り入れた。1歳児は登る事が苦戦し時間がかかるものの腕の力、足の力を使い全身を使って超えようとしていた。2歳児はおしりをついて滑る事を繰り返し慣れてくると、手を伸ばし頭から滑るなど行動が変わり自信がつき、工夫していた。スーパーホーミングの平均台は1歳児は保育士と手をつなぎ、横歩きをしながらゆっくり進んでいた。途中怖くて降りてしまう子もいたが、2歳児は一人で渡りきる事が出来る。またスーパーホーミングを組み立て、ダンプカーやバス車を作ってその上にまたがり、遊んだり、道路にして上に大好きなミニカーを走らせてみるなど遊びが広がっていった。



カニ歩き（横）→縦歩き



出発進行!(^^)!

ドンドン高く飛べるようになった



#### 4. 今後の課題と展望

遊びの中から、いろんな体験を通し、学んでいけることも多くあると信じています。「これ、やったことある」という事で取り組みに対して積極性が出たり、「今まで出来なかったことが出来るようになった」という達成感から自信がつき、自分からレベルアップを目指しチャレンジ精神も養われてきます。また出来なかった時には、悔しい思い、出来た子に対して認められる気持ちを大事に、出来た子と自分はどこが違うのか、どうしたらよいかと自身で考えられる探求心が持てる子を目指し促していき、どの子にも色々な可能性があると考えています。幼児期のうちに身体能力を高め、反射神経が発達し、事故回避が出来、もしもの時にすぐ手が出る、よけることが出来る子、など大きなけがをする事がなくなるようつなげ、生きる力を育てていきたい。集団スポーツは、自然に忍耐力や協調性、コミュニケーション能力が身に付き、個人プレイ活動は、行う側と見る側の姿勢を自然と身に付き、他の子にも興味を持ち、成功を喜んだり、応援する気持ちも相乗効果で育てていけるとよい。未来を背負う子どもたちに、出来るだけ体を動かし基礎運動能力を養い体も心も丈夫な骨太な精神を育んでもらいたいと思います。



玉は真上に投げると上手に入る～



助走して両手をついてタイミングよくジャンプ!!!



乗り物を作って友だちとピクニックだよ！見立て遊び



みんな大好き滑り台♡



気合を入れて、せーのっ！でやるぞ

以上